

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901153		
法人名	株式会社 ケアスピリット		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田426番地		電話0947-42-8830
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果確定日	平成30年03月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成30年03月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフのアンケートそのまま掲載。①認知症の方に対して認知度に依り支援対応等をスタッフでいつも話し合い、個々の支援をおこなっている。(ほぼ全員同意見)②毎週金曜日にお隣のあんしんへ、遊びに出かけ、カラオケ、エステーションによる、顔、デコルテ、ハンドのマッサージ・きれいにお化粧、及びリハビリマッサージを希望者に提供している。毎週受けているご利用者はとても肌が綺麗で、羨ましく思う。(ほぼ全員同意見)③皆様それぞれ、個性豊かに、我儘に気ままに、暮している。それをやすらぎは当たり前のように受けいれている(ほぼ全員同意見)④園長が職員入り口に毎日美味しい飴を置いてくれていて、朝それを口に入れてと優しい気持ちで仕事ができる。(同意見有り)⑤いつか認知症になったらやすらぎに入りたいと思えるホームをス

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた郊外の広い敷地の中に、小規模多機能ホーム併設のグループホーム「やすらぎ」がある。毎週金曜日には、隣の小規模多機能ホームに出かけ、その利用者と共に、カラオケやエステ、マッサージを楽しみ、暮らしの活性化に取り組んでいる。提携医療機関の医師による往診体制が確立し、入居前からのかかりつけ医との連携と併せ、安心の医療体制が整っている。「食べることは人生で一番大切なこと」との思いから、調理専門の職員による旬の食材を使った美味しい食事を提供し、十分な量を利用者は毎食完食している。我儘の言える自由気ままな暮らし、美味しい食事と職員との信頼関係が、利用者の長い入居年数に繋がり、職員が「私も家族もやすらぎに入居したい」と思えるホームを目指し、園長を中心に熱い想いで取り組んでいる、グループホーム「やすらぎ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間らしく、自然のままに、地域とともに」の理念を掲げ、毎朝、全職員で唱和している。また、実践している介護に理念とずれがないかも振り返っている。	法人理念とホーム独自の理念を見やすい場所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して、理念の共有に努めている。特に、職員の都合で利用者を抑制しないよう注意し、利用者が、「自然のままに」、その方らしく過ごせるよう、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃作業、小学校の登校指導に参加している。となりの小規模多機能あんしんでは毎週カラオケ大会、エステサロン、リハビリマッサージがあるので、地域の方に呼びかけたり、やすらぎの御利用者とあんしんの御利用者との交流を図っている。茶のみ友達感覚でワイワイガヤガヤと楽しい時間を共有している。	小学校の登校指導や地域の清掃活動等、園長が中心となって、地域の一員としての繋がりを大切に取り組んでいる。また、併設小規模多機能ホームに毎週金曜日に出かけて行き、カラオケやエステ、マッサージを楽しみ、夏祭りや餅つきを合同で行う等して交流を深めている。	小・中学校の体験学習やボランティアの受け入れ、保育所、幼稚園児との交流等、外部の人が気軽に訪れやすい、開かれたホームを目指した取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人にはいつでも気軽に遊びに来てもらえるようお願いしている。実際に来た方には和やかで自由な雰囲気には好印象をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の利用状況、現況報告を行っている。薬剤師さんの参加もお願いし、薬の副作用についてなどの勉強会にもなっている。また、メンバーから率直な意見をもらい、参考意見は、サービスに還元していくよう努めている。	会議は、区長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、併設小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に開催している。前回の外部評価を受け、薬剤師を招いて勉強会を行なう等、参加委員の増員に向けて取り組んでいる。参加委員からの意見や情報は、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の職員(包括支援センター職員)に出席してもらい、施設の現況報告を行い、お互いに情報を交換している。月に1度ケアマネ園長が包括支援センターに向いている。	利用状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、情報交換しながら、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて身体拘束について学ぶ機会を持ち、正しい知識を持ってケアに取り組んでいる。やすらぎでは拘束絶対にしていないという、スタンスで取り組んでいる。	身体拘束や虐待防止の内部研修を行い、定期的に確認する事で意識づけを行っている。日頃のケアの中で気になった事や具体的な禁止行為の事例を職員間で話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月2回の内部研修にて介護者にとって最も必要な視点、表面化しない、グレーゾーンにこそが「不適切なケア」が存在することを常に意識しながら、適切なケアを学び、正しく理解し日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を活用している方がおり、必要な支援を行っている。	成年後見制度を活用している利用者があるため、制度の内容を経験する事で理解を深めている。制度に関する資料を家族に提供し、相談を受け、関係機関に繋げている。内部研修の中で、制度について学び、知識の向上を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退居時のことも含め十分な時間をかけて説明を行い、利用者と家族の自己決定権を最大限に尊重して、家族や利用者の不安解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は宝と受け止め、苦情対応委員会を設けできるだけ利用者、家族の意にそえられるよう真摯に対応している。また意見箱を設置し、苦情相談窓口の紹介も行っている。	家族の面会時に、利用者の近況報告を行い、利用者、家族双方の意見や要望を聴いている。出された意見や要望については、ミーティングの中で話し合い、日々のケアの向上に繋げている。また、「暮らしの日記」を送付して、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にまたは ミーティングを通して、十分に聞く機会を設け、参考になる意見、提案は取り入れている。	月1回、16時から30分を合同ミーティングと勉強会、その後30分はユニットに分かれての話し合いを行っている。意見を出しやすい環境の中、職員間で活発な意見交換が行われ、出された意見は運営に反映させている。また、園長、管理者が個別に意見や思いを聴く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の長所を見出し、評価することによってさらなる向上心をもって働ける環境づくりに努めている。必要があれば、また希望に応じ、何か悩みがある時などは恒に時間を取り、園長が話を聞いている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって重視しているのは人柄や介護への情熱であり、年齢や性別は全く問題にしている。職員のそれぞれの長所を活かせるような環境づくりに努めている。	年齢や性別、資格等ではなく、人柄や介護に対する想いを重視し、想いを共有できる人を採用している。職員一人ひとりの能力を活かした役割分担、配置を行い、生き生きと働けるよう配慮している。職員が支え合える環境作りに努め、職員の定着の繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当苑の理念において第一に「人間らしく」を掲げており、人権、尊厳保持には最大限の配慮をしている。	理念に、「人間らしく」「自然のままに」と掲げ、利用者への敬意、人権を尊重した介護サービスに努めている。その方らしく、自由気ままに暮らしてもらえよう支援を心掛け、利用者が遠慮せず、我儘を言える関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、ミーティングを通して行っている。外部の研修においては、業務に必要な研修は受けているが、スキルを伸ばすための研修にパンフレットを置き(タイムカードの場所)参加希望を募っているが、自主的に参加している人もいるが、なかなか機会を確保できていない。現在は介護技術講習に介護福祉資格を得る為、受けている職員も多い。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会への参加実績はある。同業者の見学は多いがこちらから出向く機会はないので、実現に向けて計画をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に実際に見学に来てもらい、十分な説明の時間を設け、できるだけ本人の意に添えられるような関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とはいつでも気軽に相談できるような関係づくりに努め、本人はもちろんのことであるが、家族の意見、要望も最大限に尊重している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とは十分に話を聞く機会を設けて「その時」必要な支援を見極め、必要なサービスへとつなげている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物量み、テーブル拭き、箸の準備、リネン交換、掃除、衣替えなど出来る範囲で利用者と一緒にしてもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会が途切れないようお願いしており、家族には本人に安心感を与えるような役割を担ってもらっている。ご家族の協力なしでは支えることは不可な事をご家族には訴えかけているのでその協力はいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には毎月、日々の利用者の生き活きとした生活場面を捉えて記入した「暮らしの日記」を送付して、生活風景を垣間見ていただいている。以前は月に一度外出日を決めていたが、高齢化し外出を億劫がられているので実現できないでいる。また、月に一度はご家族が病院受診を引き受けてくれており、帰りに昼食を楽しまれているご利用者がいる。	友人、知人、親族の面会があり、関係の継続に努めている。また、家族の協力を得ながら、かかりつけ医の受診や馴染みの場所への外出等も支援している。週1回、併設小規模ホームの利用者やボランティアとの交流も、利用者の楽しみとなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、全職員がよく把握して、趣味が合う利用者同士でレクリエーションを行ってもらっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要なため、入院となった御利用者のご家族がもう一年近くになっても時折、やすらぎに訪ねて来られます。Coffeeでもいただきながら、ご利用者の近況などおしゃべりをして楽しい時間をいただきます。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを取り、思いや希望、意向を聞いてできる限り本人の望む生活が出来るよう努めている。	日々のケアの中で、たくさん会話をする事を心掛け、思いや希望を聴き取っている。意思表示が困難な利用者に対しては、様子から気持ちを汲み取ったり、家族と相談している。入居の長い利用者と永勤の職員が多く、信頼関係を築く中で、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報は、個人記録としてファイルし、担当者会議やミーティングを通じて全職員が把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの介護記録だけでなく、「暮らしの日記」でその人の生き活きとした日常生活場面を捉えて記入しており、注意深く、一人ひとりの観察に努めている。それにより気づきができている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、現在の心身状況を考慮し、本人、家族、関係者と十分な協議をして、介護計画を作成している。また、モニタリングを随時行い、検討して、次の介護計画に反映させている。	職員は、利用者や家族と常にコミュニケーションを取りながら、意見や要望、気になる事等を聴き取り、担当者会議の中で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、利用者の状態変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	内部研修や個人指導を行って、個別記録にケアの実践・結果、気づきや工夫を記入することが情報の共有と今後の計画の見直しに活かされるので責任を持って記入するよう指導している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が安定された利用者にはその地域の小規模多機能型のサービスを受けられるよう支援したこともある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の皆さんは長期が多く、高齢化しているが、できるだけ、週に1度は隣の小規模多機能あんしんへ、出かけて行き交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族とよく話し合っており、決定しており、二週間に一度、往診してもらっている。また、かかりつけ医とは、緊急の時でも対応してもらい、必要な医療が受けられるよう関係を築いている。	利用者や家族の希望を優先し、現在、3名が以前からのかかりつけ医を受診して、他の利用者はホーム提携医による隔週毎の往診を受けている。定期往診の他にも、緊急時の対応や指示を受けられるため、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師は常駐はしていないが、必要は御利用者には主治医の指示書にて訪問看護師が、利用者の体調管理を行いまた、体調の悪い方があれば、毎日訪問している。介護職員は、利用者の心身状況を報告して、適切なアドバイス、指導を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療ソーシャルワーカーと連絡を密にし、病状の経過把握に努めている。やむを得ず入院が長期に及ぶ場合でも居室を空けて待っていることを利用者に伝え、安心して治療を受けられるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針については本人・家族に説明し、理解をいただいている。本人・家族の意向に沿いつつできる限りの介護は行っていくが、それでも無理な状況になった時は、連帯医療機関で必要な医療が受けられるように支援している。状態が安定された利用者にはその地域の小規模多機能型のサービスを受けられるよう支援したこともある。	契約時に、利用者、家族の希望を聴いて、重度化した場合におけるホームで行える対応について説明している。利用者の重度化に合わせて、家族と密に連絡を取りながら、主治医の意見を参考にして、今後の方針を確認し、利用者が出来るだけホームで長く暮らせるよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や個人指導を行って、個別記録にケアの実践・結果、気づきや工夫を記入することが情報の共有と今後の計画の見直しに活かされるので責任を持って記入するよう指導している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防車の協力を得て、通報・避難訓練・消火訓練を実施している。又地域の消防団のかたとの交流を持ち何かの時は協力体制をとっている。	消防署(年1回)や地域の消防団の協力と、併設小規模多機能ホーム職員との協力体制を整え、定期的に避難訓練を実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路や非常口、避難場所を確認し、利用者が安全に避難できる体制を整えている。	非常時に備えて飲料水の準備はしているが、非常食の備蓄、非常用備品の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を「人生の先輩」として最大限に敬意を表しているが、言葉かけについては、少し慣れ合いになってきているところがある。	理念に、「人間らしく」「自然のままに」と掲げ、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。定期的に接遇を含めた研修を行い、親しき仲にも敬う気持ちを忘れず言葉かけを行うよう心掛けている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても常日頃から意識づけを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の生活を自分で決定できるよう主張していただき、できるだけ意に沿えられるように支援している。また、思いや希望を言いやすい雰囲気づくりにも心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での体操やレクリエーションも行っているが、参加は決して強制ではなく、個人の好み、嗜好に合わせた個別ケアを重視している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみやおしゃれができる人には自分で行っていただいているが、できない人には職員ができない部分の支援を行い、外出や行事の時にはお化粧品も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員2人体制にて、旬の食材を使用して、季節感が味わえるよう工夫している。準備や片付けは利用者のできる能力もあり、台ふきや箸の準備等簡単な作業は行っていただいている。食べる事は人生で一番大切なこととスタッフ全員周知している。	利用者にとって、「食」は最も大切な事であるという思いで、調理専門の2名の職員が、旬の食材を採り入れ、季節感溢れる美味しい食事を提供し、利用者は完食して、長い入居年数に繋げている。道の駅に出かけ、ソフトクリームやたこ焼きを食べる等、楽しみ事の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランスは調理員が、調整して行っている。水分は3度の食事の他、10時、15時のおやつ時にとりていただき、個人でも水筒を持って管理されている。個人で管理できない人には職員がよく観察して、水分補給を声かけして、勤めている。水分チェックも行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きをご利用者全員が習慣となっている。自分でできる人には自分で行っていたい。できない人には能力に応じて、できない部分の援助にとどめ、必要な支援を行っている。口腔ケアをきちんとすることの意味、誤嚥性肺炎等の病気にならないよう、ミーティングにてスタッフ全員が周知している。週に1度は訪問歯科にて口腔ケアを行なっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜、基本トイレで排泄できるよう支援している。また、利用者の意思を尊重して、できない部分の援助にとどめ、利用者が頼みやすい雰囲気づくりにも努めている。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草から察知して、トイレ誘導を行っている。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減だけでなく、本人の快適さにも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理員が工夫してメニューを考えている。水分補給は必要に応じて勤めている。また、ケアチェック表において排便確認はしっかり行っている。便秘傾向の人についてはかかりつけ医に相談し、指示をもらい、また、薬を処方してもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっている。また、順番についてはくじ引きや、前日からの順番にて決めており、利用者みんなが納得の上で決めたことなので、不平・不満は聞かれない。	週3回の入浴支援に取り組んでいるが、利用者の希望で毎日入ることも可能である。入浴の順番を交代で決めて、楽しく入浴出来るように支援している。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり話が出来ると捉え、密なコミュニケーションに努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重して、部屋でゆっくりくつろぎたい人にはゆっくりくつろいでもらっている。また、部屋で気持ちよく眠れるよう部屋の空調・換気には日々、気を配り、チェック表に記して、職員の意識を高めるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬のファイルには常時目を通して。重要なことは申し送りノートに記し、全職員が把握するようにしている。また、精神安定剤は使用しないをやすらぎはその支援をおこなってきており、これからも行なっていく。昼間の活動を支援し、夜は皆さんぐっすり眠られている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団のレクリエーションの支援だけではなく、個別に折り紙をさされたり、イラストを描かれたり、一人ひとりの嗜好、楽しみに応じた支援を行っている。又、職員の一人がオイルフラワーを製作しており、ご利用と一緒に楽しんでいる。	
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	月に一度、家族と病院受診をうけられているご利用者は家族と昼食を友にして帰園される。そのほかは、週に一度となりの敷地ではあるが、歩いて雨の日には車で、あんしんに行かれている。カラオケやエステサロンで顔、デコルテ、手指のマッサージを受けられている。またリハビリマッサージも受けている。	天気の良い日は、庭に出て日光浴を楽しんだり、ウッドデッキでお茶を飲む等、少しでも陽に当たれるよう支援している。コスモス畑や道の駅へのドライブ、梨狩り等、レクリエーションに取り組み、普段行けないような場所への外出にも取り組み、利用者の気分転換を図っている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は自己管理不可能なので当苑の方で管理を行っている。月に一度小遣い帳のコピーを郵送している。家族が面会に来られた際には出納帳に目を通してもらい、サインをいただいている。	
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、当苑の電話を使用してもらい、また携帯電話を持つ人も2名いる。事務的作業は職員が支援している。	
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周辺は田んぼで囲まれており、静かでのどかな環境で生活してもらっている。中庭には桜の木を植えており、花見の季節には利用者、職員で花見を楽しんでいる。また、暖かく、天気の良い日にはデッキでお茶を飲みながら鳥の声や風の音を楽しんでいる。	手入れの行き届いた広い敷地の中に建ち、屋内もゆったりとした造りで、中庭の桜の開花を楽しみに、明るいリビングのお気に入りの場所で、職員や利用者同士が会話しながら、それぞれが自由に寛いでいる。広いウッドデッキでお茶を飲んだり、日向ぼっこをするのも利用者の楽しみである。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはゆったりとくつろげるソファを設置してのんびりテレビを観たり、うたた寝をされている。2ユニットが開放的で自由に行き来ができ、1階、2階棟利用者の交流、憩いの場となっている。	
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族の写真を飾っており、本人の使い慣れた家具、テレビ、嗜好品が置かれ、居心地よく過ごせるようにしている。また、部屋の入り口のドアに本人の好きな花の写真を飾っている。	居室には、利用者の馴染みの家具や仏壇、写真、テレビ等を持ちこんでもらい、本人にとって安心できる空間作りを行っている。安全にも配慮して、利用者の状態や動線を考慮したうえで、家族と話し合いながら家具等の配置を行っている。小まめに掃除、換気を行い、気持ち良い生活環境を整えている。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を解消し、必要な所に手すりを設置し、ドアは開閉が楽な引き戸にしてバリアフリーな環境づくりに努めている。また、危険なものは目につく所には置かないよう配慮している。	